

マクロ経済学 練習問題

2015年7月6日

問題1 クラウディングアウトについて説明せよ。

問題2

所得	100	200	300	400	500	600
消費	60	120	180	240	300	360

(1) 消費が所得の1次関数で表されるとすると、どのような式になるか。所得を Y 、消費を C として式で表わせ。

(2) 所得が500のとき、平均消費性向、限界消費性向はそれぞれいくらになるか。

問題3

表は、ある企業の投資プロジェクト案である。投資家はケインズの投資決定論に基づき、これらのプロジェクト案を実施するかどうか判断する場合、次の記述のうち妥当なものはどれか。ただし、利率は10%とする。

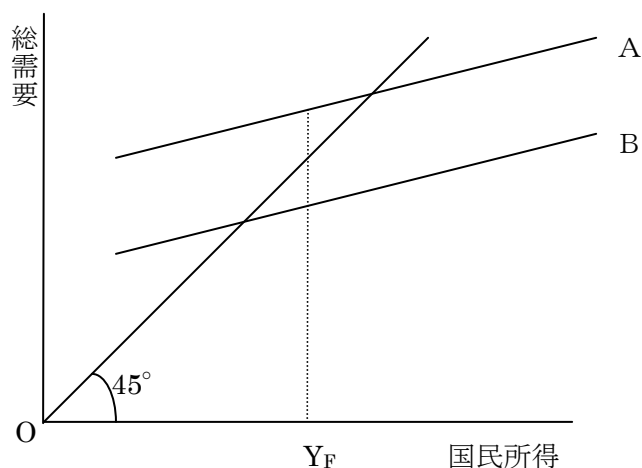
プロジェクト案	設備の利用期間	設備の費用	毎期の予想収益
A案	2年	180億円	100億円
B案	3年	900億円	300億円
C案	2年	900億円	500億円

- 1 A案は、B案およびC案いずれも実施する。
- 2 A案およびC案は実施し、B案は実施しない。
- 3 B案は実施し、A案およびC案は実施しない。
- 4 B案およびC案は実施し、A案は実施しない。
- 5 C案は実施し、A案およびB案は実施しない。

【国税専門官・平成4年度】

問題 4

総需要曲線 A, B と総供給曲線 (45 度線) が図のように示され, Y_F を完全雇用国民所得水準とすると, 次の記述のうち妥当なものはどれか。



1. 総需要曲線が A のとき, 完全雇用国民所得水準実現のためには, 減税などの拡張的財政政策がとられる必要がある。
2. 総需要曲線が A のとき, 名目国民所得は長期的には増大しないが実質国民所得は増大し続けると考えられる。
3. 総需要曲線が B のとき, デフレ・ギャップが生じており, 失業が存在している。
4. 総需要曲線が B のとき, 供給が完全雇用国民所得水準に追いつけないために, コスト・プッシュ・インフレーションが生じている。
5. 総需要曲線が B のとき, 中央銀行は公定歩合を引き上げて金融引締めを行うと考えられる。

問題 5

ある経済が不完全雇用状態にあるとする。この経済の IS-LM 曲線に関する記述のうち, 妥当なものはどれか。

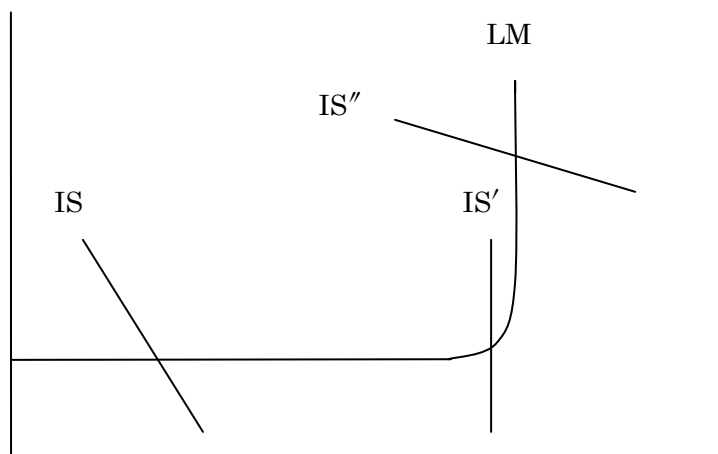
ただし, 特段の条件設定がない場合には, IS 曲線は右下がり, LM 曲線は右上がりであるものとする。

- 1 投資の利子弾力性がゼロである場合, IS 曲線は垂直になる。
- 2 投資の利子弾力性が無限大である場合, 貨幣供給を増やすと均衡利子率は低下する。
- 3 貨幣需要の利子弾力性がゼロである場合, LM 曲線は水平になる。
- 4 流動性のわなにおいては, 財政支出の増加は均衡利子率を低下させる。

【国家Ⅱ種・平成 10 年度】

問題 6

下図は、IS-LM 分析を示したものであるが、この図に関する下の記述のうち、妥当なものはどれか。



- 1 金融政策としては、貨幣供給量を増加させると LM 曲線が左方に移動するので、利子率と国民所得の均衡状態を変化させる。
- 2 財政政策としては、政府支出を減少させると IS 曲線、IS' 曲線および IS'' 曲線が右方に移動するので、利子率と国民所得の均衡状態を変化させる。
- 3 IS 曲線と LM 曲線の関係は、利子率がかなり低い水準のときに貨幣需要が増大し利子率に関して無限大となり、貨幣供給量が増加しても均衡利子率は低下しなくなる状況を示している。
- 4 IS' 曲線と LM 曲線の関係は、長期の不況時などに企業家の将来予想が極めて悲観的となるために投資の利子率が無限大になり、金融政策による利子率操作が所得水準の上昇に有効でない状況を示している。
- 5 IS'' 曲線と LM 曲線の関係は、利子率の変化が貨幣需要に影響を及ぼさないときには、政府支出を増加させても、利子率の低下を引き起こすだけで国民所得を増加させる事は出来ない状況を示している。

【地方上級・平成 9 年度】

問題 7

マクロ経済モデルが次のように与えられるとき以下の設問に答えなさい。

消費関数 $C=50+0.8Y$

投資関数 $I=100-10i$

貨幣需要関数 $L=0.2Y+250-10i$

貨幣供給量 $M=300$

- (1) IS-LMより、均衡国民所得 Y_0 および均衡利子率 i_0 を求めなさい。
- (2) 貨幣供給量が20だけ減少したとき、均衡所得および均衡利子率はどのように変化するか。

問題 8

ある国の経済が次のモデルで示されている。

$$Y=C+I$$

$$C=20+0.4Y$$

$$I=100-r$$

$$L=100+0.4Y-r$$

$$M=400$$

$$\left(\begin{array}{l} Y: \text{国民所得}, C: \text{消費}, I: \text{投資} \\ r: \text{利子率}, L: \text{実質貨幣需要} \\ M: \text{名目貨幣供給} \end{array} \right)$$

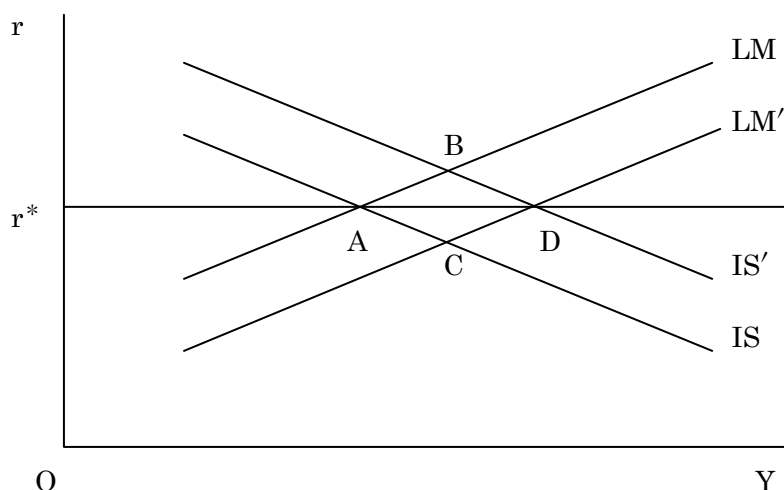
物価水準 P が伸縮的であるとき、この経済の総需要曲線は次のうちどれか。

- 1 $P=200/(Y-20)$
- 2 $P=400/(Y-20)$
- 3 $P=200/(Y-40)$
- 4 $P=400/(Y-40)$
- 5 $P=200/(Y-60)$

【国税専門官・平成8年度】

問題 9

図は、資本移動が完全な場合におけるマンデル＝フレミング・モデル(小国モデル)を表したものである。世界市場において金利水準が r^* に決まっているとすると、当初 A 点で均衡していたこの国の財政政策と金融政策に関する次の記述のうち、妥当なものはどれか。ただし、 Y は GDP であり、 r は金利である。また、物価水準は一定であるものとする。



- 1 固定相場制においては、財政拡大により IS 曲線を IS' にシフトした場合の長期的に均衡点は D 点である。
- 2 固定相場制においては、財政拡大により IS 曲線を IS' にシフトした場合の長期的に均衡点は B 点である。
- 3 固定相場制においては、金融緩和により LM 曲線を LM' にシフトした場合の長期的に均衡点は C 点である。
- 4 変動相場制においては、財政拡大により IS 曲線を IS' にシフトした場合の長期的に均衡点は D 点である。
- 5 変動相場制においては、金融緩和により LM 曲線を LM' にシフトした場合の長期的に均衡点 A 点である。

【国家Ⅱ種・平成10年度】

問題 10 この授業に対する意見、感想などを書いてください。書いてないものは0点です。